

第 5 回「東日本大震災」被災支援委員会報告

小池 正造（支援委員・東新潟教会）

11月13日、常置委員会終了後に、大宮教会で第5回「東日本大震災」被災支援委員会が行われました。

はじめに、秋山委員長より、教団対策本部の様子が報告されました。①被災各教区での教会・伝道所の被災状況が把握され、また復興・再建に向けての計画が進むに連れ、教団への復興工事支援申請が、増えてきました。被災から2年を前にして、いよいよ本格的に教会の再建が進みつつあります。ただ問題もあり、もともと教会会計が小さい教会において、突然の教会再建（補修・新築）は、思わぬ支出のため、返済計画を立てづらい教会があるという現状です。教団からの支援が、現状では、1/2が援助、1/2が貸出となっているためです。今後、募金状況によっては、その割合が変更にある場合もあります。関東教区は、全額援助となるように、引き続き教団に訴えていきますが、皆様の熱い募金支援も引き続きお願いいたします。②対策室の担当幹事が、前NCC総幹事を務められた飯島信氏に交替になったことが報告されました。今後、飯島幹事のもと、人道的支援活動の資金となる海外募金活動に力を入れていくこととなります。

金刺主事より会計報告がなされました。教団教育委員会よりいただいた指定献金を教区内にある乳幼児関係施設16園にお送りいたしました。詳細については、12月初旬に、教区内各教会・伝道所に配布される教区通信を御覧ください。

熊江委員より10月29日から11月2日掛けて行われたボランティアについて報告がありました。今回の関東教区よりの参加は、6名（教師3名、信徒3名）でした。ボランティア現場近くにあったエマオ笹屋敷が撤去され、ビニールハウスが集合場所となっていました。また、荒浜には、居住制限区域ができ、道路を一つ挟んで制限区域とそうでない区域があり、切ない思いをしたことが報告されました。また、冬場のボランティアの減少が訴えられました。（ボランティア報告は、支援ニュース47号を御覧ください。）

先に持たれました常置委員会において、原市教会、甘楽教会より提出された復興工事支援申請が承認されました。

被災地・被災教会を覚えて共に祈りをあわせる旅（被災地ツアー）に関して協議をいたしました。新井委員より、多くの方々の関心によって、定員が満たされたことへの感謝と、期間中の無事を祈っていただけるようにとの願いがありました。費用について参加費一人29,800円で、費用の不足分約22万円を支援委員会より支出することを決めました。（ツアー報告は裏面を御覧ください。）

3.11記念礼拝を、2013年3月11日（月）午後2時より宇都宮市内教会（教会未定）で行うことを決めました。詳細は決まりしだいご連絡をいたします。

「被災地被災教会で祈りを合わせる旅」

新井 純（新潟地区長・十日町教会）

去る 20～22 日「被災地被災教会で祈りを合わせる旅」が行われました。秋山教区議長を団長に、29 名の参加でした。20 日、新潟発組は会津放射能情報センターで片岡謁也さん、輝美さん、自由さんのお話を伺いました。原発事故による放射能汚染の問題はイメージしているよりずっと深刻で、特に被災地の復興の歩みに甚大な悪影響を与えています。これはまさに人類の問題なのだとの認識を新たにさせられました。午後郡山で埼玉発組と合流、秋山議長の開会祈祷のあと、バスの中でそれぞれがこれまでに行ってきた支援活動について分かち合いの時を持ちました。花巻温泉郷泊。

21 日、新生釜石教会の祈祷会に出席しました。未だ十分な修復がなされないままの礼拝堂で、柳谷雄介牧師の聖書研究に耳を傾け、小グループに分かれてお祈りを合わせました。釜石市の復興計画が定まらないので、教会の再建補修を躊躇されているご様子、心労は様々な形で被災された方々にストレスを与え続けているようです。お昼は、釜石市に設置されたプレハブ造りの仮設「はまゆり飲食店街」で各々自由にいただきました。街に戻るのが不安という店主がいるかと思えば、絶対戻る！と宣言される店主もいて、ひとりひとりが置かれている立場や心情の違いが、復興の歩みにどのような影響を与えるのかいろいろ思いめぐらせました。移動の車中では、新生釜石教会でボランティア活動に関わった経験のある参加者の報告を分かち合い、被災された方々の思いを優先して寄り添い歩むことを確認しました。

午後は大船渡教会を訪問、村谷牧師と教会役員の方にお話を伺いました。避難危険区域の方は避難をしたので無事だった方が多く、安全だと思っていたエリアの方々が逆に避難せずに津波に飲まれてしまったというような、被災された方の生の証言の迫力に圧倒されました。ここでは秋山議長に導かれ、有志が自由に祈りを捧げる形を取りましたが、間があくことなく次々に祈りが捧げられたのが印象的でした。

大船渡教会を後にし、街が破壊された陸前高田市、気仙沼市、南三陸町を通り、石巻市へ移動しました。途中休憩した道の駅は、仮設で再開されたばかりとのことでした。津波被害に遭うまではもっとも海に近い JR 駅と、そこに併設する道の駅だったそうです。居合わせたタクシーの運転手さんが、「いっぱい助けてもらったから、綺麗な海岸を取り戻してみんなに来てもらいたいんだ」と話してくださいました。石巻市内ホテル泊。

22 日は、ホテルから徒歩 3 分のところにある石巻 YMCA 支援センターで、専任スタッフの伊藤剛士さんから、子ども支援を中心にした活動報告を受けました。被災の様子もプロジェクトの映像を使ってわかりやすくお話ししてくださいました。

仙台市に移動、東北教区被災者支援センターエマオの専従スタッフ佐藤真史さんをバスに迎え、市内から荒浜地区、名取市の閑上地区などを詳しいガイドで案内していただきました。海岸近くの同じような被災地域であるにも関わらず、両市の復興計画の違いにより戻れる人と戻れない人がいることや、近い将来撤去移転が確実なことを承知の上で、被害にあった家を修復して住んでいる方の家を見るなどして、参加者一同「自分ならどうするだろう」と考えたことでしょう。昼食は荒浜の美しい海岸でいただきました。

出発前、高橋和人東北教区議長より、「被災地に立って、そこの空気を吸ってくださるだけでもいいんです」とのお言葉をいただきました。その思いに寄り添い、これからもそれぞれの場で祈りを合わせていく者でありたいと思います。